

くさかった 奈良県

むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

ある日のこと、おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。おばあさんが川で洗濯をしていると、川の上のほうから、大きなおいがどんぶらこっこすっこっこ、どんぶらこっこすっこっここと流れてきました。おばあさんは、よろこんでおいを拾ってうちに持ってかえりました。そして、焼いもにして、おじいさんの帰りを待つていました。

いくら待ってもおじいさんは帰ってこないし、おばあさんは、お腹がすいてたまりません。あんまりお腹がすいたので、おじいさんの帰りを待ちきれないで、ひとりでおいもをぜんぶ食べてしまいました。

すると、お腹が大きくなって、お腹が張って、ぶうつとおならをしてしまいました。山ではおじいさん、柴を刈らずに草刈った。ああくさかった、くさかった。

おしまい

村上郁 再話

資料 『奈良県吉野郡昔話集』 国学院大学説話研究会

